

逆境アピールで知名度アップ！観光型商店街のコロナ禍の取組

【小樽堺町通り商店街振興組合】（小樽市）

観光型商店街から地元に愛される商店街へ

小樽堺町通り商店街は、小樽運河からほど近く、小樽駅から徒歩 10 分程度の距離にある観光型の商店街である。

昭和初期に建てられた木骨石造倉庫を活用した店舗に、ガラス製造小売業、菓子製造小売業、海産物店、土産物店、飲食店など、約 900m ある堺町通りに多くの店が立ち並び、歴史的な街なみと人の魅力から、市民や観光客に親しまれている。

新型コロナウイルスの感染拡大は、同商店街に大きな影響を及ぼした。メインターゲットである観光客が大幅に減少したほか、観光商店街という背景から、最寄品ではなく買物品（専門品）を取り扱う店舗が多く、比較的単価も高いイメージもあって、地域住民がほとんど訪れない状況にあった。

こうした状況の中、同商店街は交流人口（市民及び来街者）の維持と増加を図っていく事こそが、地域の活性化と期待に応える取組であると考え、マイクロツーリズムに着目した地域住民のニーズに積極的に応えていく取組を実施した。



Go To さかいまちキャンペーン



同商店街では、毎年秋にハロウィンイベントを実施してきた。これまでは商店街内の広場に巨大なカボチャのオブジェを設置したり、通りにハロウィンフラッグを施したり、仮装コンテストを開催したりと、街自体も賑わいあふれるイベントを開催してきた。

しかし、2020年初めから感染が拡大した新型コロナウイルスの影響により、通りの様相は一変。これまで多数訪れていたインバウンドの客足は途絶え、緊急事態宣言等により国内の人の流れも抑制されると、観光に大きく依存してきた同商店街は大きな打撃を受けた。

あれほど賑やかだった人通りはまばらになり、一日の売上が数千円という店舗も少なくない状況に。営業時間の短縮や臨時休業を決断する店舗も出始め、商店街は閑散としたありさまだった。

「この苦境を打開する方法はないだろうか。」

同商店街は、前述のとおり観光需要に依存してきたため今の事態に陥った。これからは、もっと地元の人達に商店街の良さを知ってもら

うべきなのではないか。

同商店街は、「さかいまち盛り下がってるぜーっ！！」「お客様来ないからもう笑うしかありません！ワッハッハー！」など、逆境をユーモアで表現した自虐的なポスターが SNS などで注目を浴びていた時期だった。その流れから、この年のハロウィンイベントはコロナ禍で客足が減少する商店街を「ゴーストタウン」になぞらえて実施することを思い立った。

そんな折、Go To 商店街事業（先行募集）の公募を知り、これを活用しようということになった。対象とするのは、ハロウィンイベントと、小樽市が実施するプレミアム商品券事業を活用した市民向けのプロモーションである。

ハロウィンイベントでは、子どもたちが商店街のスタッフが扮する「ゴースト」のいるお店を全て回るとお菓子をもらえる企画や、ゾンビに仮装した地元大学生が踊り出す「フラッシュモブ」企画、商店街で買い物をしたレシートが大好きなゾンビ達に、そのレシートを見せるとお菓子がもらえる企画など多数開催。商店街各所にアルコール消毒液の設置や3密回避のための注意書き看板の掲出など、感染対策を徹底した上でのイベントとなったが、近郊圏からのファミリー層を中心に、



目標を大きく超える1,800名以上の参加者を得たほか、Instagramのフォロワー数も1,200名増の2,200名となり、多くの堺町ファンを獲得するなど大きな成果を上げた。さらに、イベントの様子はテレビ18本、ラジオ2本、新聞5紙で紹介されるなど、多数のメディアにも取り上げられ、全国区の知名度を獲得した。

一方のプレミアム商品券事業のプロモーションは、ハロウィンイベントでフォロワー数が増加したInstagram等のSNSの活用や、新聞へのチラシ折込、市内バスへのポスター掲出など、多様な方法で実施。さらに、同商品券を利用して買い物をしたお客様へは、10%相当分の割引サービス等を受けられるようにすることや、利用者に抽選ハガキを配布して実施した抽選会などにより、同商店街での商品券の利用を促進し、コロナ禍で苦しむ商店街に好影響をもたらした。

事前のプロモーション等が功を奏し、地域からの集客数は目標値を大きく上回る結果を出した。Go To 商店街事業の実施は、同商店街の知名度アップに大きく貢献すると共に、商店街内の連帯感を生むという相乗効果も生んだ。一方、お客様の数や期待値に対するサービスやパフォーマンス等の供給が追いつかなかったという今後に向けた課題も残った。

同商店街では、組合青年部が中心となり、直近1年間で組合設立以後最も多くの事業を実施してきた。コロナ禍での積極的な事業実施により獲得した新たなファンや地元大学生との連携、YouTubeやSNSを活用した情報発信手段を強みに、今後も取組を継続させていく。

<商店街からひとこと>

今年のハロウィンイベントのように、情報発信やお客様に笑顔になって頂く事は感染拡大には関係ないと考え、当商店街を忘れないでもらう為に必死になって行動してきました。事業を実施するからこそ感染対策には最大限の注意を払わないといけませんし、そうした状況下での事業実施の繰り返し、新しい成果や課題に繋がると考えます。私たちは、小樽観光の中心エリアという気概を持って、この街の発展も衰退も自分達の努力次第という使命感を持って、今後も継続して笑顔になって頂けるような事業を取り組んで参ります。

商店街データ

商店街名：小樽堺町通り商店街振興組合

所在地：北海道小樽市堺町 6-11

URL：<http://otaru-sakaimachi.com/>

商店街の種類：観光型

連絡先：0134-27-1133

担当：事業推進マネージャー 坂口